

# 令和5年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	266	学校名	仙台市立錦ヶ丘中学校	校長名	久世 達也
------	-----	-----	------------	-----	-------

- 1 取組のタイトル、テーマ  
「自ら取り組むエコ活動」



## 2 取組の紹介

### ○ゴミの量の削減

昨年まではコロナ感染対策として、教室にゴミ箱を設置せず、スーパーのゴミ袋を持参し、マイゴミ袋として自分で出したゴミを管理していました。今年は以前のように教室にゴミ箱を設置するようになりましたが、昨年同様、ごみ削減を一人一人が心がけているので、各クラスのゴミの量は少ないです。またゴミを減らす観点から割りばしを使用せず、マイはしの持参を徹底しています。

### ○ゴミの分別回収

給食時はストローやジャムの入れ物などのプラスチックゴミと一般ごみの分別をしっかりと行っています。



### ○古紙の分別回収

教室でも古紙の回収を行い、紙資源のリサイクルや資源ごみとしての回収をしています。また、職員室でも紙のリサイクルを徹底し、片面のみの印刷物の裏面利用を行っています。小さな雑紙もすべてゴミとせず、資源ごみとして回収をしています。



### ○エアコン・ストーブ・教室蛍光灯の節電

移動教室の時には、消灯やストーブのスイッチを必ず切っています。学年委員や環境整備委員を中心に行います。夏のエアコンは、移動教室のたびにスイッチオフよりも、つけたままドアをしかりと締めて冷気を逃がさない方が節電につながるのと共通理解をはかり、教室のドアを必ず占める取り組みを行いました。

### ○封筒のリサイクル

アンケートの回収などでたくさん出る古紙封筒を、技師さんがリサイクルしています。表面にかわいいイラストの紙を貼ってあり、その絵から生徒とのコミュニケーションが生まれ『ほっこり封筒』と呼ばれています。



## 3 取組の成果（児童生徒の変容）

活動の一つ一つは小さなものですが、自分たちがすぐに出来る取組を、地道に続けていくことが大切であると考え進めてきました。小さな取組の積み重ねが、持続可能な社会をつくることへの一歩であると思います。エコ活動は学校生活のみならず、日常生活の中で当たり前のように自然と積み重ねていくことが大切です。家庭でも、ごみの分別や電気の使用を減らす工夫を行い、今できることを今すぐに行うことを心がけ、生徒たちが今後もよりよい環境づくりを進めて、持続可能な社会について考えられるよう指導していきたいと思っています。